

昭和62年度 和歌山県文化奨励賞

ひがし よう いち
東 陽 一

住 所：東京都世田谷区
出 身 地：和歌山県海草郡野上町
生 年：昭和9年

◎業績及び経歴

昭和29年県立大成高校卒業後、早稲田大学文学部に入学、同人雑誌等で文学活動を行っていたが、次第に映画に傾倒。卒業と同時に岩波映画製作所に入社し、記録映画の助監督となる。昭和37年退社、フリーとなる。昭和38年はじめての監督作品、短編「A FACE」を撮る。また、記録映画作家協会に入会し、のちに編集委員となる。その後、短編映画を撮りながら、映画評論を書く。昭和44年、東プロダクションを創立し、全国的活動を始めるきっかけとなった長編記録映画「沖縄列島」を自主製作する。

昭和46年「やさしいにっぽん人」で、日本映画監督協会新人賞を受賞。昭和53年、映画製作会社「幻燈社」を創立し、ATG(Art Theater Guild)との提携作品「サード」により、昭和53年度芸術選奨文部大臣新人賞、ブルーリボン賞などを受賞し、映画監督として確固たる地位を築いた。

その後も、昭和54年「もう頬づえはつかない」(毎日映画コンクール優秀映画賞)。昭和55年「四季・奈津子」。昭和56年「ラブレター」、「マノン」。昭和57年「ザ・レイプ」、「ジェラシー・ゲーム」。昭和58年「セカンド・ラブ」。昭和60年「湾岸道路」。昭和61年「化身」など次々にヒット作品を製作する。

氏は、現在の日本映画界を代表する映画監督の一人であり、優れた映画作品の創作を通して、映画文化の普及、振興に貢献されている。